

## 平和祈念礼拝

### <牧師室から>

4~5 月の在宅礼拝を経て、ようやく 6 月に会堂での礼拝を再開できたのですが…首都圏中心だった新型コロナ感染も沈静化しつつあるように思えた時期もありましたが、今では全国的規模にまで広がり、とく首都圏、さいたま地域の感染がこれまで以上に顕著になっています。そこで 8/2 礼拝後の執事会で、8 月末までの会堂での礼拝再休止を決めました。9 月にはまた再開できることを祈ります。

本日の平和祈念礼拝も、皆様と一堂に会して平和の主を仰ぐことはできませんが、在宅礼拝用週報を通してご一緒していただきたいと思います。1945 年の 8/6 広島、8/9 長崎の原爆投下、そして 8/15 敗戦をもって日本は平和憲法に向かう道を歩みだしました。その“道”は、1937 年日中戦争開戦、1941 年太平洋戦争開戦と、戦禍の泥沼に突き進んだ日本が、戦後、歴史の主キリストの憐れみと赦しをいただいた証しだったのではないのでしょうか。しかし今、世論には戦争のできる国を希求する声もあり、日本がその“道”から逸れてしまう危険性があります。今一度私たちは歴史の主キリストの憐れみ、赦し、そして平和の道を祈り求めていきたいと思います。

### <在宅礼拝にあたって>

できる限り日曜 11:00~12:00 に下記の在宅礼拝プログラムをご一緒しましょう。教会堂で共に礼拝を捧げていた時を思い起こし、励みにしていただきたいと思います。なお難しい方には時間の都合のつく折にささげてください。

教会堂での礼拝の場合、御言葉や祈りは司会者のことば（声）を通して聞く、賛美歌は奏楽者のリードで会衆一同、歌うことによって捧げていますが、在宅の礼拝の場合は、以下を参考にして、夫々の工夫によってささげましょう。わからないことは、牧師にお尋ねください。

#### ・「招詞」

招きのみ言葉です。

この礼拝に招かれていることを感謝し、聖書のみ言葉に聴きましょう。

#### ・「聖書」

御言葉をゆっくり味わいましょう。音読するなどの方法もおすすめです。

#### ・「感謝と献金の時」

献金は、感謝と献身の表しとして捧げられるものです。1週間の出来事を思い起こしての感謝と応答を祈りましょう。献金を直接ささげることができないこの時には、封筒に入れるなどして、教会堂での礼拝が再開された折ご持参いただければ幸いです。

・「賛美」

歌詞を読んで味わうなどでも結構です。ユーチューブに収録されている賛美に声をそろえるなどの方法も考えられます。

・「メッセージ」

「メッセージ要旨」をお読みください。

・「祈祷」

メッセージから受けた恵みや、祈りの課題を含め示されたところを祈りましょう。

・「頌栄」

「ベネディクション」の賛美を通して主の祝福を心に受け、共に来主日に向けた新しい一週間を歩み出していきましょう。

・「祝祷」

お互いに主の祝福を祈り合い、また主の祝福が世界各地に満ちるよう共に祈りましょう。

#### <在宅礼拝プログラム>

- ・招 詞 詩篇 85 篇 8 節
- ・賛 美 新生讃美歌 326 番 「ガリラヤの風」
- ・平和の祈念
- ・感謝と献金の時
- ・主の祈り
- ・聖 書 出エジプト記 1 章 1 5 節～2 章 1 0 節 （口語訳旧約聖書 74 頁）
- ・メッセージ 「神をおそれ、王が命じたようにはせず」
- ・祈 祷
- ・賛 美 新生讃美歌 330 番 「み使いの歌はひびけり」
- ・頌 栄 新生讃美歌 679 番 「ベネディクション」
- ・祝 祷

#### <平和の祈念>

天の神様。コロナ感染拡大によって多くの人たちが分断され、疲れやさみしさを覚えています。どうか私たち教会が共に生きる喜びを主から与えられていることを思い起こさせてください。いかなる境遇にあっても霊的に一つにされている恵みを思い起こすことができ

ますように。また今、コロナ感染拡大のただ中でも行政の経済優先は維持されています。どうかこれ以上、経済と命とが天秤にかけられてしまうことがありませんように。かつての大戦でも経済優先によって世界が蝕まれていった経緯を私たち人類が忘れることがありませんように。広島に原爆投下、長崎に原爆投下、そして敗戦、あれから75年が経とうとしています。今こそ命の主イエス・キリストによる平和に立ち返り、共に祈念することができますように。主イエスによって解放された私たち教会は、応答として十戒に生き、赦され生かされた群れとして、もはや殺すことなどできないことをいつも思い起こさせてください。かつて教会が戦争に協力してしまった過去を忘れることなく、極限状況は暴力とその正当化へと私たちを誘惑することを覚えさせてください。たとえそれが愛する者を守るための暴力であっても、その暴力行為によって私たちは主イエスの十字架のもとでさばかれることをいつも思い起こさせてください。主イエスに従う群れとして、主イエス以外のものを断念する勇気を与えてください。終わりの日に、主は敵意と殺戮、報復と絶望を完全に終わらせ、苦しめられてきた人たちの目から涙を全くぬぐい取ってくださることを信じ、主が来られるときに至るまで主の死を告げ知らせ、和解の福音を担い続けていくことができますように。主イエスよ先立ってください、ともなってください、私たちを新たにしてください。尊い救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

平和に関する信仰的宣言【平和宣言】(2019年改訂版の交読文)を参考にしつつ

#### <メッセージ>

本日の聖書箇所命の危険にさらされているのは男の子だけではありません。女の子の行く末にも生き地獄が待ち受けています。時の権力者が戦争を意識し始めるとき、命は社会的な利害損得に左右され始めます。(1:10) そして本日の聖書箇所イスラエルの男の子は世から排除されていき、女の子は権力者に対する無抵抗を強いられた生涯へと閉じ込められていこうとしています。しかし神は命の危険のただ中に、命の主として、救いのみわざを起こし始めていきます。聖書教育の該当箇所 p.44 にはこうあります。“…助産師たちがおそれた神は「その神々」とも訳せます(1:17,21)。それに対し 1:20 の「神」は文法上 唯一の神としか解しようがありません。その土地の神々もあらゆる命への畏敬を教えます。だから神は神々のための余地をもつくります。…神は土着の信仰を持つ者たちであっても、命をおそれる人々を大きく祝福しておられるのです。” 権力者が恐れるほど力あるイスラエルの象徴、それは男でした。しかしその男の命を救う器として選ばれたのは、社会的に無力と見なされていた女性でした。しかもそれは、いわゆる救いに選ばれた民の信仰の枠にとどまらず、命を愛する者を広くご自身の器とする命の主の選びでした。

地位、名誉、財産をめぐる疑心暗鬼から解放されることは容易ではありません。1:22 には“疑わしきは抹殺する”、“利用価値のある範囲内で生かす”を地で行こうとする権力者の姿があります。そして抹殺対象となった命を抱えたある家族は、一つの決断をします。男の赤子の命を手放します。(2:3) まさに赤子の命について“運を天に任せる”のです。古今東西、権力者が国家体制の危機を盾にとって命に等級をつけ、家族が家族を見捨てざるを得ない

事態が繰り返されてきました。とくに身体的精神的にハンディを負った命はそのような国家的社会的犠牲にされ続けてきました。しかしそのような犠牲に向かう弱い命に、命の主は共にいてくださいました。そしてここでも命の主の器は、社会的に無力と見なされていた女性たちでした。救いに選ばれた民、そうでない民との区別を越えて、神の救いの器が豊かに起こされていきました。(2:4~10)

主の平和は天の歌声のように今も世を覆っていることでしょう。地上が、多くの命がどれほど疑心暗鬼に傷つけられていても、必ず主の平和が人知を越えて訪れることでしょう。平和の主を待ち望みましょう、信じましょう、賛美しましょう。その昔、救い主イエスをその胎に宿したマリヤが歌ったように。「主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさい。」(ルカによる福音書 1:51~53) あらゆる命を十字架の主の平和で満たしてくださる神を共に喜びましょう。

#### <祈りの課題>

- ・全世界で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。脅威にさらされ困難の中にある方々のために、また治療にあたっている医療機関の方々のために、予防法や治療法が示されますように。
- ・この度の九州、東北を中心とした集中豪雨により被災された方々を覚え、お祈りください。また、速やかな復旧を願って働かれている皆さんのために。
- ・東日本大震災、熊本地震、今年の台風 15 号・19 号、その後の大雨等によって被災され、痛み、悲しみの中にある方々を覚えて。また震災支援の働きに仕えている連盟、諸教会、伝道所を覚えて主のお支えがありますように。
- ・9 月には会堂での礼拝再開の道が開かれますように。また在宅礼拝期間中もお互いの祈り合い、支え合いが守られていきますように。

#### <報告>

さいたま市など全国で広がるコロナ再感染と夏場の熱中症リスクの狭間で換気(窓開放)も難しいため、8 月末まで会堂での礼拝、諸奉仕を再休止とします。あわせて会堂での諸集會も休止継続です。

今後の状況によって期限の変更を行う場合は、改めてお知らせします。